

2025 年 12 月 作品

青野正宏

新作百人一首替え歌 その 8(49-53)

野外での焚火には気を付けよう

山の森 枯葉焚く火の 周囲燃え

へりで消しつつ 火事こそ思へ

49 御垣守(みかきもり) 衛士(えじ)の炊く火の夜は燃え

昼は消えつつ ものこそ思へ



美容のためには金がかかっても仕方がない。

とはいえ、度々は痛い 一回でながくもたせたいなあ

肌のため 惜しからざりしエステ代

ながくもたせと 思ひけるかな

50 君がため 惜しからざりし命さへ

ながくもがなと 思ひけるかな



もう勝負あったな 飛車角とられれば 勝ち目ないよ

もうちょっと定跡を勉強しなければ

角と飛車 もはや失う 指し手順

指し手知らじな 定跡手順を

51 かくとだに えはや伊吹のさしも草

さしも知らじな 燃ゆる思ひを



頼んだら 援助してくれるとわかっていても

プライドが許さない

頼めれば 呉れるものとは 知りながら

なほ恨めしき やせ我慢かな

52 明けぬれば 暮るものとは知りながら

なほ恨めしき あさぼらけかな



推しに投げ銭して随分お金を使ったけれど

冷めてしまえばもったいないことをしたものだ

投げ銭で ひとり推し活 さめぬれば

いかにむなしき ものかとは知る

53 歎きつつ ひとり寝る夜の明くる間は

いかに久しき ものかとは知る

